

# 札幌スポーツアンドメディカル専門学校 平成 27 年度 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小高 政利

学校関係者報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 大菅 貴広

## 1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来約30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ・人間性を高める教育の深化

⇒「スポーツ・医療を通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を教授する事に留まらず、人間性を高める教育にも併せて注力することにより、社会で必要とされる人材を輩出する

### ・新規設置学科となる「鍼灸科」「柔整科」の土台をしっかりと築き上げること

・教職員は「就職率」「学生からの授業・卒業生アンケート」「皆勤率」「行事満足度」「実習満足度」など、数値として検証可能なもの全ての”結果にこだわる”

・退学率を更に低減するために、担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと

・産学連携を強化し、地域社会への貢献及び生徒の実践力向上を実現させる

・就職率 100%を達成するために、就職先企業との連携を強化すること

以上の6点について、重点的に取り組んでいく。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1). 教育理念・目標（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学科の新設や生徒数の増加に伴い、新入教職員が増加した為、新入教職員への教育理念の深いレベルでの浸透が必要

② 今後の改善方策

年度末年始の会議だけでの説明ではなく、定期的に行っている担任会議やクラス会議、教科会議等でも学校の理念・目的・育成人材像について浸透するための時間を設ける

③ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・育成人材像について、明確に掲示等により学生に周知されていて判りやすい
- ・学生の挨拶が非常に素晴らしい。教育理念が指導を通して学生に浸透していることが伺える
- ・勤続年数に関係なく、全ての教職員が教育理念を深いレベルで理解していることが理想である

(2). 学校運営（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

教職員が業務を行う上で、過去に発信されている規定や文書について、紙ベースでの保管となっているものが多く存在しているため、確認をするために時間を要し、業務の効率化が図れていなかった

② 今後の改善方策

教職員向けのポータルサイトが平成 27 年度より公開され、同サイト上で規定及び文書管理が行われる様になった。今後は同サイトを活用し、教職員の業務の効率化を図っていく

③ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・適切な学校運営がなされていると感じる
- ・教員の業務負担軽減の為、更なる業務の効率化が必要である
- ・HP を利用し、適切に情報公開がなされている点が評価できる

(3). 教育活動（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

資格取得のための指導体制について、カリキュラムの中での体系的な位置づけが不明瞭であった為、生徒の資格取得へのモチベーションを十分に高めることが出来なかった

② 今後の改善方策

1. カリキュラムの刷新、2. 特に強く取得を促す資格の明確化、3. 補講等集中強化期間のバックアップ体制の見直しを行い、資格取得の為の指導体制を強化していく

③ 特記事項

平成 28 年度より、(株)ルネサンスにご協力を頂き作成を行った新カリキュラムでの運営を開始している

④ 委員コメント

- ・資格そのものに意味を求めるだけの指導ではなく、「資格を取得するプロセス」の中に深い学びがあるということも非常に重要であり、学生に伝えていくべきである
- ・定期的に就職先企業や外部実習先企業の方からの評価をヒアリングし、教育の改善に繋がられている点が評価できる
- ・数多くの企業や関連団体の方々が授業に関わっており、実践的な教育に繋がっている

(4). 学修成果（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

卒業生とのコミュニケーションが上手く取れていない為、WEB上に卒業生同窓会サイトを立ち上げ、運用しているが、卒業生からの認知度が低く、活用できていない

② 今後の改善方策

学校のHPやSNSを活用し同窓会サイトの存在を周知し、利用を促進する。また、卒業式前のHRにて全ての卒業予定者に同窓会サイトのリーフレットを配布し、周知を徹底する

③ 特記事項

平成27年度進路決定率(進学者含む):96.6%(平成28年4月末日時点)

④ 委員コメント

- ・安定して高い就職率を維持できている点が非常に評価できる
- ・今後も引き続き「業界内就職率」に拘った就職指導を望む
- ・卒業生との繋がり強化及び活用により力を入れていくべきである

(5). 学生支援（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

卒業生への支援が、転職を希望する卒業生に対する「再就職支援」のみに留まっている現状がある

② 今後の改善方策

業界内で活躍をしている卒業生に対し、平日夜間や土日祝日等に学内での「スキルアップの為のセミナー」や「マネジメント力向上の為のセミナー」等を業界関係者と連携し実施していく

③ 特記事項

平成 28 年 5 月 21 日(土)に卒業生の為のスキルアップセミナーを開催予定

④ 委員コメント

- ・担任教員から保護者への連絡が密に行われている点が評価出来る
- ・1名の学生に対し2名の教員が支援するという就職の支援体制が、高い就職率に繋がっていると感じる
- ・卒業生向けのセミナー等がより盛んに実施されると良い

(6). 教育環境 (適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)

【評価項目】	自己評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

① 課題

海外研修について、興味を持つ生徒は多いが費用が高く、参加出来ない学生が多い

② 今後の改善方策

入学前から概算の費用を伝え、計画的に費用を準備できる流れを作る

③ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・最新の施設設備が備えられている点が評価出来る
- ・昨今の状況を鑑みて、より強く防災に対する危機管理を行って欲しい
- ・海外研修により多くの学生が参加できる仕組み作りが必要だと感じる

(7). 学生の受入れ募集 (適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)

【評価項目】	自己評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

本校に早く進路を決定した入学予定者に対して、入学前の時間を有効に使える様、各業界の第一線で活躍する方々をお招きし、特別講習会を実施している。また、学納金については、他校学納金水準も把握したうえで決定している

### ④ 委員コメント

- ・募集活動において、カリキュラムの説明等教育に関するものについて適正に案内できていると感じる
- ・オープンキャンパス等の募集活動が数多く行われており、参加者が参加しやすい環境が整っている点が評価出来る
- ・学納金は妥当な金額であると感じる

## (8). 財務（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える

### ② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

### ③ 特記事項

#### ○中長期的な財務基盤の安定について

- ・5年前に中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している

#### ○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している

#### ○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している

○財務情報公開について

・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

※27年度決算が終了していなかったため26年度財務諸表を参照して財務情報を共有

(9). 法令等の遵守（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

更なる法令遵守を徹底していく

② 今後の改善方策

全体で集まる会議や配布物を通して、関わる全ての教職員へ継続して啓蒙していく

③ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・自己評価の結果について、このような場を設けて改善に努めている点が評価出来る
- ・自己評価の公開をしている点が評価出来る

(10). 社会貢献・地域貢献（適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）

【評価項目】	自己評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域に対する講座や社会貢献において、まだ取り組みが不十分であると感じる

② 今後の改善方策

総合演習という授業科目を設定し、授業で学んだ「トレーニング」「ストレッチ」「スタジオレッスン」等を地域の方々へアウトプットする取り組みを開始しているため、その活動を更に強化していく

### ③ 特記事項

本校では地域への貢献策として、学生へのボランティア活動への参加を積極的に促しており、多くの学生が参加している ※詳細は以下の通り

#### 〈事例紹介〉

- ・「札幌 30K マラソン」
- ・「苫小牧ハスカップトライアスロン大会」
- ・「苫小牧マラソン大会」
- ・「鷹栖ジョギングフェスティバル」
- ・「余市フットサル大会」
- ・「北海道車イスバスケットボール大会」
- ・「ラグビートップリーグ網走合宿レフリーサポート」

以上のイベントにおいて、本校教員、学生がトレーナーブースを設け、参加者に対してパートナーストレッチやアイシング、大会の運営補助を行った

### ④ 委員コメント

- ・このような機会を学生に多く提供できている点が非常に高く評価出来る
- ・学生にとって、学校では決して学ぶことが出来ない学びの場となっている様に感じる
- ・今後も引き続きこのような活動を継続していくべきである

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

目標及び計画として年度当初に掲げた、

- ・人間性を高める教育の深化
- ・新規設置学科となる「鍼灸科」「柔整科」の土台をしっかりと築き上げること
- ・教職員は「就職率」「学生からの授業・卒業生アンケート」「皆勤率」「行事満足度」「実習満足度」など、数値として検証可能なもの全ての”結果にこだわる”
- ・退学率を更に低減するために、担任教員と教科担当教員の情報共有を密にしていくこと
- ・産学連携を強化し、地域社会への貢献及び生徒の実践力向上を実現させる
- ・就職率 100%を達成するために、就職先企業との連携を強化すること

以上の6点について、昨年度までよりは強化できたと言える。

しかし、全卒業生から回収している「卒業生アンケート」の結果を分析すると、学校側が考え取り組んでいる各種改善・解決策と、生徒が望んでいるものの間に若干の隔たりがある様に感じる。

今後は、学校関係者や業界の方々、卒業生や保護者、在校生の意見を吸い上げる機会を多く設け、学校側が考える教育上の課題と、周りの方々が感じる課題との間にあるギャップを極力無くし、よりよい教育活動を行える様、努めていきたい。